

高等学校 令和7年度（1 学年用） 教科 家庭 科目 家庭基礎

教 科： 家庭 科 目： 家庭基礎 単位数： 2 単位
対象学年組：第 1 学年 1 組～ 6 組
教科担当者：（1 組：吉田 ）（2 組：小見川 ）（3 組：芳野 ）（4 組：吉田 ）（5 組：小見川 ）（6 組：芳野 ）
使用教科書：（ 実教出版 家庭基礎 気づく力 築く未来 ）
教科 家庭 の目標：

- 【知 識 及 び 技 能】人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。

科目 家庭基礎	の目標：
【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】
人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付ける。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に実現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A 単元 青年期の自立と家族・家庭 【知識及び技能】 家族・家庭の機能と家族関係、家族・家庭生活を取り巻く社会環境野変化や課題について理解を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 自己の意思決定に基づき、責任をもって行動することや、男女が協力して、家族の一員としての役割を果たし、家庭を築くことの重要性について考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 主体的、自主的に学習に取り組んでいる。	・「家族」の条件とは何か考える。 ・家族が抱える問題を踏まえて、家族を支えるしくみについて具体的に考える。 ・家族に関する法律の理念や背景、改正点について理解する。	【知識・技能】 結婚、家族・家庭の多様化や、時代とともに変化する役割について理解できる。 家族に関する法律についての知識を身につけている。 【思考・判断・表現】 家族・家庭に関する課題・問題点について、社会的な制度、労働環境や雇用情勢などの背景も考慮しながら原因を推測、解決へ導くための考えをまとめ、討論やレポートを通して発表することができる。 家族の変遷や家族に関する意識の変化、さらには、現在の家族の抱える問題・課題などについて、新聞や書籍などから情報を収集し、自らの考えをまとめることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 結婚、家族・家庭の形、家族・家庭の役割について、自分とどうかかわっているのか、興味・関心をもとうとしている。 家族、家庭生活に関する法律について関心を持ち、家庭生活と法律との関係について、理解をしようとしている。	○	○	○	6
	B 単元 子供の生活と保育 【知識及び技能】 乳幼児期の心身の発達と生活、親の役割と保育、子供を取り巻く社会環境、子育て支援について理解するとともに、乳幼児と適切に関わるための基礎的な技能を身に付けること。 【思考力、判断力、表現力等】 子供を生み育てることの意義について考えると、子供の健やかな発達のために親の家族及び地域や社会の果たす役割の重要性について考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 主体的、自主的に学習に取り組んでいる。	・育児を学ぶ意義について理解する。 ・子どもの誕生、子どもの心身の発達と特徴について理解する。 ・子どもは、親や保育者などの身近な大人とのかかわりあいのなかで発達していくことを理解する。 ・子育てのための国や地域の社会的支援について理解する。 ・子どもの食生活・衣生活、安全管理について学び、子どもとのかかわれるようにする。	【知識・技能】 子どもの心身の発達や子どもの生活についての知識を身につけている。 生命の尊さ、子育ての意義について理解することができる。 子どもの発達段階において、子どもをとりまく人とのかかわり、地域環境・社会環境の重要性、子どもの福祉について理解できる。 【思考・判断・表現】 子どもの心身の発達、現在の子どもを取り巻く状況や子育ての環境について、課題を見つけ、解決への考えをまとめることができる。 子どもの生活やとりまく環境、また、現在の子育ての環境や地域社会や国の支援策や課題などについて、情報を収集し、まとめることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 子どもをとりまく状況について、現状を知り、その課題を見つけ、解決に向けて考えようとしている。	○	○	○	10
	定期考査			○	○		1

2 学 期	C 単元 高齢期の生活や共生社会と福祉	・高齢社会の現状を知り、身近な問題としてとらえる。 ・高齢者と家族とのかかわり、経済、社会での活躍などを知り、高齢者における生活の課題について考える。 ・日常生活を手助けできる介助の技術を身につける。 ・介護保険制度について理解する。 ・介護をめぐる課題の解決にはどのようなことが必要か考える。	【知識・技能】 高齢化社会の現状や課題について情報収集、調査・研究を、課題解決に向けて考えをまとめることができる。 認知症の高齢者と接するときに必要な心がけを理解している。 介助技術や車椅子の扱い方を理解している。 社会福祉の意味、現在の社会福祉の状況、社会保障制度のしくみについて理解できる。 【思考・判断・表現】 要介護の高齢者と接する上で気をつけるべきことを考えることができる 社会福祉や生涯を通しての社会保障制度のしくみについて、現在の生活課題と関連させながら考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 高齢社会の現状、高齢者の心身の特徴や生活について積極的に知り、高齢者とかかわろうとしている。	○	○	○	8
	定期考査			○	○		1
	D 単元 食生活と健康	【知識及び技能】 ライフステージに応じた栄養の特徴や食品の栄養的特質、健康や環境に配慮した食生活について理解し、自己や家族の食生活の計画・管理に必要な技能を身に付ける。食品の調理上の性質、食品衛生について理解し、目的に応じた調理に必要な技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 食の安全や食品の調理上の性質、食文化の継承を考慮した献立作成や調理計画、健康や環境に配慮した食生活について考察し、自己や家族の食事を工夫する。 【学びに向かう力、人間性等】 主体的、自主的に学習に取り組んでいる。	・日本の食文化形成を知り、郷土料理について調べる。 ・自身の食生活の現状把握と今後の課題を理解する。 ・環境に配慮した食生活（食品ロス等）について考える。 ・栄養素の種類と働きやそれぞれの栄養素が多く含まれる食品についての基礎的な知識を身につける。 ・調理を通して、基礎的な技術を身につけ、食事マナーを実践する。 ・食品衛生（食品の選択、食中毒、食品添加物）について学ぶ。	【知識・技能】 日本の食文化について、成り立ちや特徴を理解できる。 栄養・食品に関する科学的な知識や調理の技術を身につけ、それを実際の食生活に生かすことができる。 【思考・判断・表現】 自身の食生活や現在の食生活の課題を発見し、課題解決のために思考し、解決にむけての判断ができる。 栄養の機能と食品のかかわり、また食品の特性と調理との関係において、科学的な思考を身につけ、食品選択、栄養計算や献立作成など、実際の食事づくりにむけての判断ができる。 調理実習において、作業の流れを判断しながらとりくむことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 自分自身の食生活について関心をもつとともに、自分や家族の食生活について意欲的に改善・向上に努めようとする。 調理実習においては、積極的に参加し、とりくもうとしている。	○	○	○
E 単元 衣生活と健康	【知識及び技能】 目的に応じた被服の機能と着装について理解し、健康で快適な衣生活に必要な情報の収集・整理ができる。 被服材料、被服構成及び被服衛生について理解し、被服の計画・管理に必要な技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 被服の機能性や快適性について考察し、安全で健康や環境に配慮した被服の管理や目的に応じた着装を工夫すること。 【学びに向かう力、人間性等】 主体的、自主的に学習に取り組んでいる。	・衣服の起源や歴史、風土に適した衣服について知り、人はなぜ衣服を着るのか考える。 ・衣服が持つ機能や安全性などについて学ぶ。 ・快適な衣服の特徴や機能について考える。 ・衣服の種類に応じた適切な選択や保管ができるようにする。	【知識及び技能】 衣服の素材の種類や特徴について知識を身につけ、用途に応じてどんな衣服が適切か理解できる。 材料の選択、日常の衣服管理の方法を習得するとともに、基礎縫いなどの縫製技術を身につけ、日常着の管理ができる。 【思考力、判断力、表現力等】 衣服材料・衣服整理についての基礎的な知識を身につけ、実生活での衣服管理において、適切な判断ができる。 【学びに向かう力、人間性等】 基礎縫いの確認のための実習に積極的にとりくもうとする。	○	○	○	10
定期考査				○	○		1

3 学期	G単元 住生活と住環境 【知識及び技能】 安全や環境に配慮した住居の機能について理解し、適切な住居の計画・管理に必要な技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 住居の機能性や快適性について考察し、安全や環境に配慮した住生活や住環境を工夫する。 【学びに向かう力、人間性等】 主体的、自主的に学習に取り組んでいる。	・生活と住まいの機能とのかかわりについて考える。 ・気候風土と住まいとの関係、そこでの人間の営みとの関係を考える。 ・快適な住まい方を考え、平面計画を立てる。	【知識及び技能】 日本独特の生活様式と、それに伴う住まいの特徴を理解している。 安全で快適な住まいや、社会環境・地域環境についての知識を身につけ、現在の住生活の課題についても認識できる。 【思考力、判断力、表現力等】 現代のライフスタイルやライフステージに応じた住まいについて考えることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 住まいの機能、住空間の計画や住環境について関心をもち、快適な住まいづくり、よりよい住生活の創造にむけて意欲的にとりくもうとする。	○	○	○	6
	F単元 消費行動と意思決定 【知識及び技能】 消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定や契約の重要性、消費者保護の仕組みについて理解するとともに、生活情報を適切に収集・整理できる。 【思考力、判断力、表現力等】 自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することや責任ある消費について考察し、工夫する。 【学びに向かう力、人間性等】 主体的、自主的に学習に取り組んでいる。	・情報社会における生活情報について知り、その適切な活用方法について考える。 ・契約、多様な販売方法や支払い方法について学ぶ。 ・問題商法による被害を未然に防ぎ、早期解決する方法を考える。	【知識及び技能】 消費行動における意思決定の過程とその重要性について理解でき、また契約についての知識を身につけている。 消費者の権利と責任などについて理解できるとともに、現代の消費生活の課題について認識できる。 【思考力、判断力、表現力等】 多様化する販売方法や支払い方法について、問題点や解決策を考え、判断することができる。 消費行動における意思決定の過程について、具体的な事例を通して主体的に考え、判断することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 自分が一消費者であることを自覚し、物・サービスの購入のあり方や、消費行動、消費と環境とのかかわりについて積極的に理解しようとする。	○	○	○	8
	G単元 生活における経済の計画・生涯の生活設計 【知識及び技能】 自立した生活を営むために必要な情報の収集・整理を行い、生活課題に対応し意思決定をしていくことの重要性について理解を深める。 家計の構造や生活における経済と社会との関わり、家計管理について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ライフスタイルと将来の家庭生活及び職業生活について考察し、生活設計を工夫する。 生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について、ライフステージや社会保障など関連付けて考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 主体的、自主的に学習に取り組んでいる。	・適切な家計管理について考える。 ・個人や家庭生活を支える社会保障制度や社会福祉についての重要性を理解する。 ・将来のライフイベントや起こりうるリスクと、その費用について考え、長期的な経済計画について学ぶ。 ・こんにちの社会背景を踏まえて、具体的に生涯にわたる生活設計を考える。	【知識及び技能】 家庭経済・国民経済などのしくみについて理解でき、短期・長期的経済計画の重要性を認識できる。 【思考力、判断力、表現力等】 現在の経済社会と家計との関係を考えながら、家庭の収入・支出・預金などについて、適切な考えをもち、判断ができる。 将来のライフイベントとその費用を考えることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 現在の自分のこと、将来の生活設計を考えることについて、意欲を持ってとりくもうとしている。 自分の近い将来についてのキャリアや生活についての設計を考え、ワークなどを用いてそれらを具体的に描いていくことができる。	○	○	○	6
	定期考査			○	○		1
							合計
							70